

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～岐阜県～

◆取組の内容

- ～英語教員の英語力向上及び指導力向上を図るための研修の充実～
- ◆英語力向上研修と外部検定試験による成果検証
 - ・外部専門機関と連携した英語力向上講座（通い2日間）
 - ・e-Learningによる学習環境の提供
 - ◆授業指導力向上研修
 - ・「英語教育推進リーダー」による指導力向上研修（小中義高）
 - ・授業改善講座（小中義高）
 - ・外部専門機関と連携した研究開発講座（高特）
 - ・研修協力校（高）
 - ◆評価改善・充実講座（中義）
 - ◆小学校英語教科化対応講座（小義）

◆成果と課題

①小学校高学年の英語教科化対応

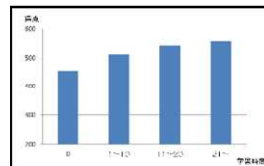
→ 「英語教育推進リーダー」による還元研修は、5年間で全小学校に通じ終了するが、引き続き「Classroom English」や「新教材の活用法」などの強化が必要。

②中学校教員の英語力向上

→ 中学校でも「授業は英語で行うことを基本する」となる。中学校教員の英語力はH29年度過去最高値だったとはいえ全国平均を満たしていないことが大きな課題。※H30は調査中

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
中学校	22%	16%	23%	24%	23%	26% (148 / 573人)
高等学校	69%	65%	76%	80%	77%	79% (318 / 401人)

→ e-Learningによる学習環境を整備した。学習者のペースで学習をすることができ学習時間の長さが外部検定試験の結果につながった。しかし、経年研修での必修受講者で取り組みが乏しい者もいた。



③大学入試改革や発信力育成を見据えた指導力向上

→ 4技能5領域の総合的に育成する必要があるが、特に高校生に課題がある発信力（スピーキング・ライティング）について、さらなる強化が必要。

◆課題解決のための手立て

①小学校英語教科化対応

- 合同実施による小中接続
- 拡充 ◆小学校英語教科化対応講座（小中義）（年2回継続型講座）
新教材等の執筆者と授業実践者等が講師となり、講義と演習
・高特の希望者も受講可
 - 拡充 ◆授業実践支援講座（小中義）
（年2回継続型講座）
・高特の希望者も受講可
 - 新規 ◆Classroom English 講座
（小学校英語教科化対応）
・放課後の時間帯 県内6地区で開催

●中学生の英語力4技能の強化が急務
●学習到達目標設定の意義や、目標（出口）から日々の指導と評価を改善を図ることの重要性及具体的な指導の方途についての研修が必要
★CAN-DOリスト改訂版の作成、検証委員による効果的なパフォーマンステスト実施及び評価方法の実践研究が必要

②教員の英語力向上

- 変更 ◆小中高の希望者対象に職場や家庭等で行える英語学習の支援
（e-learningによる英語力向上サポート）
※成果検証として、外部検定試験を実施

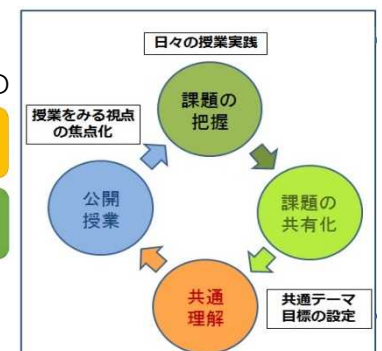
■変更点

- 経年研修の必修を廃止し、対象を意欲の高い希望者のみに絞る。
- ライセンス期間も6ヶ月から12ヶ月に拡大し、より充実した研修とする。

③大学入試改革や発信型技能強化を見据えた指導力向上

- 変更 ◆発信型技能を統合した授業活動について指導力向上講座
- ・外部有識者による授業改善委員及び受講希望者への指導力向上講座（年3回継続型指導）
 - ・小中義の希望者も受講可
 - ・授業改善委員による公開授業
- 変更 ◆研究開発講座（高特）
- ・外部専門機関による現行大学入試問題傾向と分析、外部検定試験の傾向に対する講義・演習実施
 - ・小中義の希望者も受講可

授業改善のイメージ



④研修協力校

- ◆全校種に研修協力校を指定
- ・外部有識者の指導・助言

小・中・高の接続

主体的・対話的で、深い学びにつながる授業改善に必要



平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～岐阜県立可児高等学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- 【課題】入試対策偏重になり、「読む」、「聞く」に重点が置かれ「4技能のバランスの取れた授業」の展開ができない。
 【対策】・「話す」、「書く」活動を日常の授業や指導でいかに取り入れるかについて教員間で知恵を出し合い、情報交換を行う。
 ・外部専門機関の助力を得て、課題解決をはかる。

具体の取組の内容

- ①Let's Describe! (提示されたワード・フレーズをペアで言い当てるクイズ形式の活動)
- ②600文例Output Activity (ペアで600文例の暗唱をし合う口頭での活動)
- ③Small Talk & Small Writingの実施(指示されたTopicについて1人1分程度ペアで話し、自分が話した内容を紙に書く。→ 毎回5,6人ずつ提出し、教員が添削)
- ④KJET-Sの導入(クラス単位でコンピュータ室で行う)1年生はテスト実施。
- ⑤Presentationの実施(「地域とのつながり」というテーマでグループ毎に行う[2年])
- ⑥研究授業で、外部講師に授業・指導の問題点の指摘を受けるとともに、実際に示範授業をしてもらい教員の授業力向上の一助とした。



Presentationの授業



KJET-Sの授業

成果①

【生徒の変化】

本校が定める「Can-Do List」に対して、生徒の「Speaking」における「できる意識」の向上が見られた。また、それに伴って他の技能でも向上が見られた。

4技能における「Can Do達成度」の変化(5月→12月) 全校生徒対象

「5月」				「12月」				「できる」の増減
技能	できる	どちらでもない	できない	技能	できる	どちらでもない	できない	
Speaking	8.3%	68.4%	23.3%	Speaking	14.4%	67.2%	18.4%	+6.1%
Writing	13.6%	61.9%	24.5%	Writing	15.3%	65.5%	19.2%	+1.7%
Listening	13.4%	68.8%	17.8%	Listening	16.2%	70.6%	13.2%	+2.8%
Reading	16.0%	65.5%	18.6%	Reading	21.0%	64.4%	14.6%	+5.0%

成果②

【教員の変化】

教員には以下の実践を授業内で行うなど、授業改善に向けた意識の向上が見られた。

- (Speaking) ・英文の内容をRetelling したり語句のParaphrase を実践。
 ・本文の内容を問う質問を出し、自分で答えを見つけた後にペアで会話形式で確認する。
- (Writing) ・あるテーマについての研究や発展的な調べ学習を通して、それをまとめる力をつけさせる。
 ・授業の中で重要構文などが出たときに口頭英作を作らせる。
- (Listening) ・多読教材や教科書の英文を聞いて内容について話し合わせる。
 ・Shadowing, Dictationを毎回授業に取り入れる。
- (Reading) ・長文をパラグラフごとにまとめた上で全体の要約をつかむことをさせる。
 ・クラス内での発表を取り入れたり、ペアでのピアエンディングをさせる。

今後の課題・方向性

- ①単元・定期考査での「読むこと」「聞くこと」「書くこと」の筆記テストの質を改善し、それが授業改善と生徒のモチベーションにつながる工夫をする。
- ②Authenticな教材や活動を授業に取り入れ、生徒がグローバルな環境を意識して英語を使う場面を設け、グローバル社会で活躍することを意識した「自律的な学習者」の育成を図る。
- ③生徒の「話すこと」及び「書くこと」における外国語(英語)表現の能力を評価するために、「コミュニケーション英語」「英語表現」の両科目でパフォーマンステストを実施する。
- ④生徒の発話や作文に対するFeedbackの効率的な方法の研究をすすめる。